

がんばろう福島

情報をお寄せください メールアドレス:sn-fukushima@sponichi.co.jp

03(6666)0601

塩田沙奈尚志 亡き祖父にささぐり3連覇 個人形女子

男女の個人形が行われ、女子は塩田沙奈（尚志3年）が決勝で佐藤明日香（勿来工2年）を5-0で下し、3連覇を飾った。5月25日に祖父を亡

第62回県高校体育大会空手道競技第1日
（3日 いわき市・平土高体育館）

日、盛岡市）でのリベンジV、および7月の高校総体（山口県）でのベスト8以上を天国の祖父に誓った。男子は新家隆寛（勿来工3年）が同種目での兄弟制覇を達成した。

▽女子個人形決勝
塩田沙奈 5-0 佐藤明日香（尚志）（勿来工）

4戦ストレート

いつも以上に、迫力満ちる塩田が激しく叫ぶ。迫真の演舞を終える

と、息をつく。判定は5-0で3連覇達成。笑顔に絶やさなかった女王は武曾由英監督の姿が視界に入ると、涙腺が決壊した。目を真っ赤にさせて同僚に飛びつく。「大会前に祖父が亡くなって

」。緊張から解放された女王が泣きじゃくった。5月25日朝、祖父の塩田昭男さんが帰らぬ人になった。87歳だった。塩田は祭壇の前で「2020年の五輪に絶対出ます



3連覇 塩田尚志の演舞を飾った迫真の演舞を飾った沙奈

「東北大会もいけそうです」と満足そうに振り返った。

兄の影響で始めた空手は本人の努力でメキメキと上達した。高校では武曾監督の指導のもと、得意ではなかった組手と並行。その成果が形の演舞

での力強さやメリハリに生かされている。3月の全国選抜でもベスト16に躍進した女王は「東北で優勝して、インターハイはベスト8。祖父のためにも頑張ります」と誓った。悲しみを乗り越えてつんだ3連覇。明確な目標を口にした塩田の表情は、自信に満ちあふれていた。（黒田 健司郎）

「がんばろう福島」の写真の問



男子団体

学福2年ぶり王座奪還



男子団体を制した学法福島
島・平工V激しく攻める学法福島の中堅
・倉橋(奥)

5人1敗もせず
インハイ8強

学法福島が予選から圧倒的な強さを披露し、県王者を奪還した。3年生が不在ながら昨年の新人戦から宮崎、倉橋、星、渡部、菅野の5人が固い絆で切磋琢磨(せつさたくま)した。この日も全試合ストレート勝ちで、決勝も平工を3-0で圧倒した。新チーム結成以来、常に上級生との対戦が続くが、本間大造監督は「まだまだ足りない面はあるが、新人戦から成長しているし」

男女の団体戦が行われ、男子は2年生主体の学法福島が決勝で平工を下し、2年ぶり30度目の優勝。リーグ戦で行われた女子は、学法福島との激戦を制した尚志が6連覇を達成した。男女の優勝校は、7月30日開幕の高校総体(山口県長門市)に出場。きょう5日の最終日は、男女の個人組手が行われる。

大将・平野が決着

学法福島戦は2勝2敗で大將戦へ。尚志の武勇由英監督が自信を持って送り出した平野くる実(3年)が着実にポイントを奪って相手の1年生3

女子団体
尚志がV6

選手を下した。「くる実がよくやった」と指揮官に称えられた平野は、「重圧もあったし、昨年までなら負けていた。でも、最後のインターハイが懸かっていたので勝ちたかった」と笑顔。近年は充実した戦力で5連覇を飾っていたが、今年は学法福島も経験者の1年生3

伸びしろもある。これからは「勝負」と期待の口ぶり。目指すは地元で開催される来年のインターハイでの優勝で、宮崎は「今年のインターハイは8強が目標。来年につなげる試合がしたい」と力を込めた。渡部は「全国選抜は1回戦で負けているので、必ずベスト8には入りたい」と誓った。

人を加え戦力はきつ抗し制約がある中、形の練習を免除して相手に懸けた激戦となったが、3年生平野は「全国は強いチームばかりですが、思い切り頑張ります」と弾むような声で奮闘を誓った。



女子団体6連覇を飾った尚志